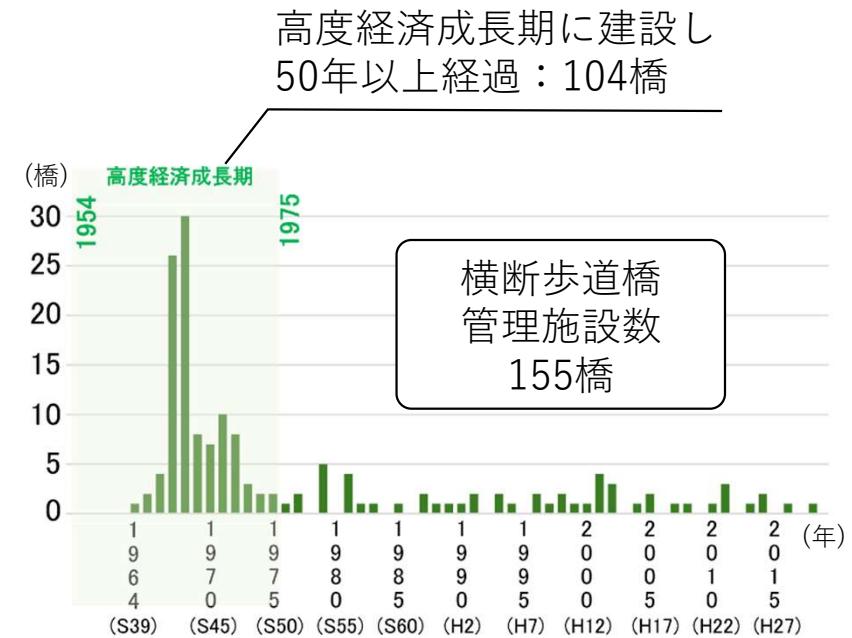


横断歩道橋の撤去に向けて

1. 横断歩道橋の撤去に向けて

施設の状況

- 歩道橋管理施設数は 155 橋
- 管理施設の 67 % は高度経済成長期に建設



歩道橋を取り巻く課題

○ 老朽化への対応

- ・維持管理の増大



老朽化（継続的な補修）

○ 少子高齢社会への対応

- ・小中学校の統廃合等による通学路廃止
- ・高齢者等の利用に配慮



少子高齢化への対応



歩道幅員、視認性の阻害

○ 交通安全の確保

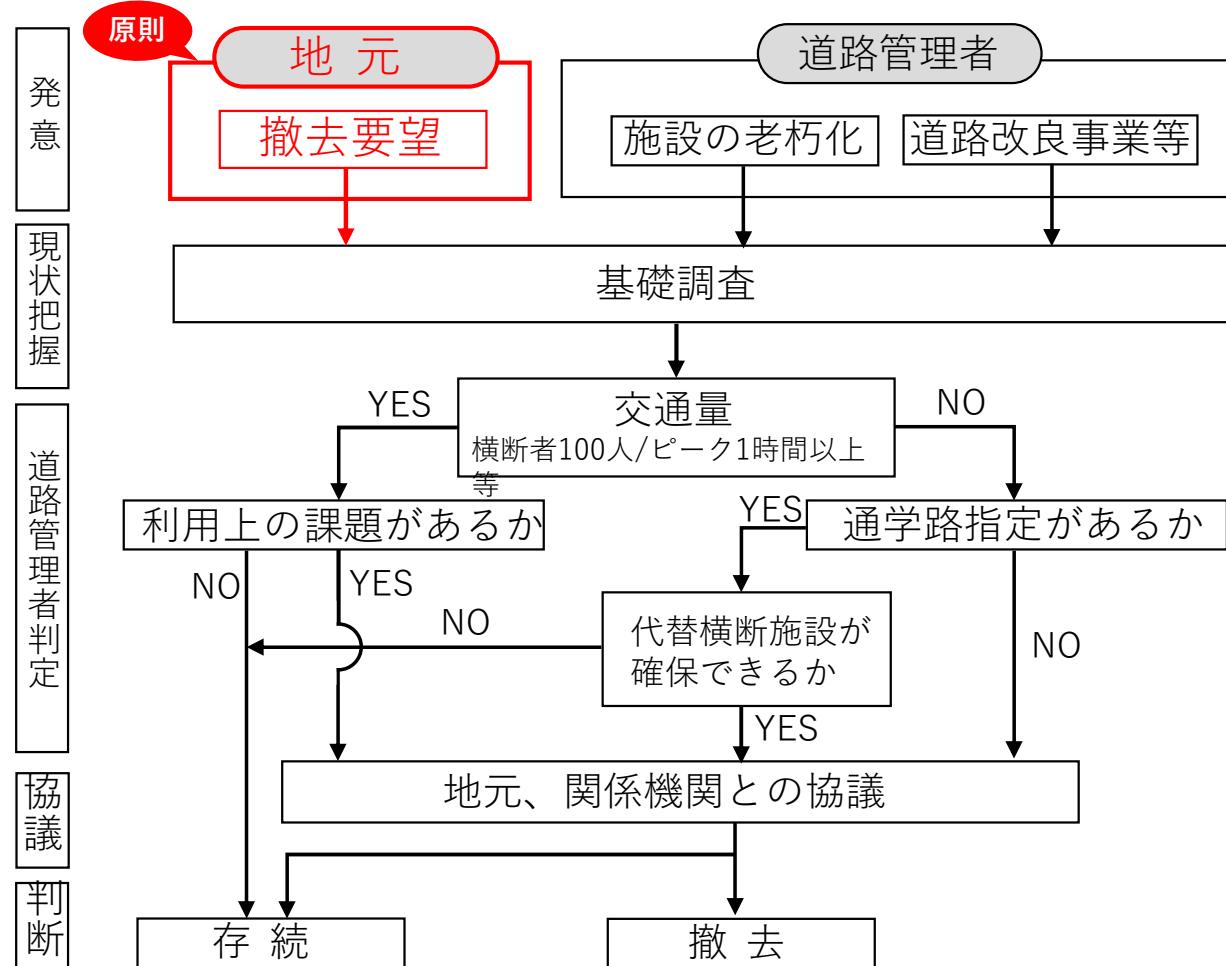
- ・支柱や階段による歩道空間の狭隘化

1. 横断歩道橋の撤去に向けて

現行の方針（現状も含む）

- 平成26年12月、横断歩道橋の撤去に関する手引きを策定（静岡県交通基盤部道路保全課）
- 原則として地元（自治会等）から撤去要望がある横断歩道橋を対象としているが、地元からの要望はない。

◎横断歩道橋の撤去・存続の判断フロー(横断歩道橋の撤去に関する手引き)



1. 横断歩道橋の撤去に向けて

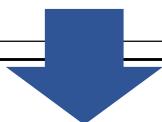
今後の取組（方向性）

上位計画

◎静岡県社会インフラ長寿命化行動方針（R6.3静岡県交通基盤部）抜粋

その他の優先順位の考え方として、施設毎の地域条件等を考慮し、ライフサイクルコスト（LCC）が縮減されるよう考慮することとする。また、一部の施設においては、早期措置段階の施設が多く残っているが、これらが施設利用者等にとって機能上の問題がないケースも見られる。このような場合も含めて、各施設管理者が、施設の劣化状況や利用状況等を鑑み、周辺施設と併せて機能を維持できるように、補修、更新等の対策と、廃止、統合といった集約・再編の検討を、全体最適の考え方で進めることとする。

横断歩道橋の撤去に向けて



- 歩道橋の利用状況等を整理し、撤去候補を抽出
- 歩道橋周辺の安全対策(横断歩道設置、歩道空間改善等)と合わせて歩道橋撤去を検討
- 地元、関係機関との合意形成

歩道橋撤去候補のポイント

【目安の歩道橋数】

- 通学路指定が解除【（指定なし38橋）】
- 下部工により歩道幅員が確保できていない【橋脚が歩道上に設置64橋】
- 利用率が低い【12hあたり100人以下 = 18橋】
- 建設後50年が経過【104橋】
- 点検による健全性診断がⅢ判定(早期措置段階)以上【43橋(2巡目点検)】
- 付近に代替施設(横断歩道等)がある【18橋】

- 横断歩道橋の撤去に関する手引きの見直しを行う（横断歩道橋の撤去・存続の判断フロー見直し）
- ストックマネジメントの最適化を図るため、横断歩道橋撤去に向けた調整を進める